国際貢献パワー おかやまは動く

アジア医師連絡協議会
AMDAからの報告
シリーズ企画 No.6

内戦で故郷を追われた難民、大地震で家屋を失った被災者、疫病に倒れた人や負傷者を助けようと、AMDA（本部・岡山市）の医師らが世界に飛び出していく。シリーズ企画「国際貢献パワー　おかやまは動く・AMDAからの報告」の六回目（最終回）は座談会を開き、AMDAに関心を持つ人らが、AMDAの活動の意義などを話し合いました。（文中敬称略）

優しさ、いたわりに感動 汗流す援助、それが大切

出席者

岡山県経済団体連絡協議会座長
稲葉　侃爾さん
御津郡加茂川町長
片山　舜平さん
青年海外協力隊OG
末光　美世さん
AMDA代表
菅波　茂さん
司会／藤岡 博昭
山陽新聞社 常務取締役広告局長

稲葉　侃爾さん（いなば・かんじ）　京大法学部卒。昭和23年中国銀行入行、同62年頭取。岡山経済同友会代表幹事など務め、岡山県経済団体連絡協議会座長として岡山発展に貢献している。

片山　舜平さん（かたやま・しゅんぺい）　高松農高中退。加茂川町企画課長、助役など経て平成3年4月から町長、2期目。国際貢献を視点にしたユニークな町づくりを進めている。

―医療ボランティアのAMDAが誕生して12年。岡山県三木記念賞や山陽新聞賞など多くの賞が贈られ、国連NGOにも認定されました。しかし経済大国日本は今、国際貢献のあり方が世界から問われています。そこでAMDAを県民にもっと知ってもらい、支援を広げる必要があると考えてこのAMDAシリーズを企画したわけです。多くの反響をいただいていますが、皆さんはAMDAの活躍をどのように見ているのでしょうか。

稲葉　昨年1月の国連NGO認定祝賀会に出席しましたが、幅広く四百五十人が参加され、県民のAMDAへの期待が高いことを実感しました。日本はガバメントの分野では国連難民高等弁務官の緒方貞子さんが頑張っていますが、AMDAはンガバメント。内戦の難民キャンプなどに薬を持って駆けつけ、聴診器を当てて医療活動に汗を流している。岡山発の地球規模のボランティアを展開していることは県民の誇り。同時に、AMDAの存在は岡山にとっても人間を大切にする地域づくりを推進する上で力になると思います。

片山　"日本一温かい心があふれる町"を目指している加茂川町が、国際貢献推進の条例を全国に先駆けて94年に制定したのも、実はAMDAの影響なのです。

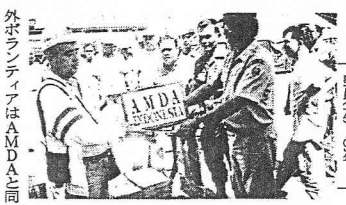
―具体的にはどんなことがあったのですか？

片山　私は93年にAMDAが難民救援活動中のバングラデシュを訪れる機会を得て、貧しい農民と笑顔で活動している日本のボランティアに衝撃を受け、帰国後、町職員をAMDAのソマリア難民救援視察に派遣しました。なぜ小さな町が国際貢献なのか。優しさといたわりは大切にしなければならない行政の視点であり、町づくりの基本です。AMDAから教わることが多くあります。

菅波　AMDAを評価していただき有り難く思います。17年前私はカンボジア難民キャンプにかけましたが、お役に立てなかった。人的組織がなかったからでした。そこでアジアの医師らと人道援助のネットワークをつくり、大地震や民族紛争が起こると緊急救援に飛び出したり、ネパールの無医村などに長期的な医療支援を始めたのです。当初、日本ではNGOの認知度は低かったのですが、94年のルワンダ難民、昨年の阪神・淡路大震災、サハリン大震災などの緊急救援を通じて多くの人に知っていただきました。でも、AMDAが活動できるのも、県民の皆さんから資金や救援物資を寄せられたり、岡山での後方支援ボランティアがあるからこそです。

末光　私は92年から青年海外協力隊員として中米のホンジュラスで働き、一昨年帰国しました。農業が主体の開発途上国で、日本の援助で農業開発プロジェクトが行われています。その国の私は女性グループに栄養や調理指導、農産品加工指導などをしました。ホンジュラスの生活向上にどれだけ貢献できたのだろうかという気持ちですが、現地の人々に家族同様に接していただき、自分の居所を見付けたようで本当にうれしく思いました。協力隊は政府開発援助の一環で活動していますが、海外ボランティアはAMDAと同じ。汗を流すことも同じです。

稲葉　その汗を流すことが大切なのです。日本の国際貢献はお金で済ますような傾向が強く、まさに"顔の見えない日本"だった。この考えはいろいろなところである。例えば町内会の掃除でも、お金だけ出して参加しない人もいる。一緒に汗を流すことがコミュニティー。これからの日本は、国際社会で汗を流してコミュニティーに参加しないと、尊敬を受けない。AMDAはコミュニティーの真の意味、日本のワールドワイドのコミュニティーを考えるきっかけをつくってくれたと思います。



インドネシア大地震で救援にかけつけたAMDAの調整員（左）＝96年

受けた親切は忘れない 身近にすごいNGO

ミャンマー難民を診療するAMDAの医師＝92年、バングラデシュ

―AMDAのプロジェクトは四十にも及んでいる。緊急救援が目立ちますが、長期支援もありますね。

菅波　AMDAの理念は互いに助け合うことです。それが信頼を生み、平和につながると考えています。国際社会では"分かりやすさ"が大切。親切は言葉が通じなくても分かりやすい。受けた親切は忘れない。サハリン大地震でかけつけた時、民間の救援は前例のない国なので援助を断られた。それが「阪神・淡路大震災でロシアから受けた親切のお返しをしたい」と説明すると喜んで受け入れてくれた。国レベルでは政府間の調整に手間取る。地震被害など急を要する救援はNGOが動きやすく、活動も分かりやすいのです。

末光　助けがすぐ必要なところに飛び込む。身近にすごいNGOがあると誇りに感じます。

菅波　内戦の難民キャンプで難民がコレラやマラリアでばたばた倒れている。急いでかけつけねば役にたちません。24日にもレバノンへ緊急派遣したところです。

末光　緊急救援ではありませんが、青年海外協力隊は発展途上国で農業や教育、保健、技術開発などの分野でレベル向上のお手伝いをしています。私自身、国際貢献といった意識はあまりもたずに協力隊に応募したのですが、日本の海外ボランティアも、長期的援助や緊急援助など多様な形態が補完しあえばより充実した活動になっていくのではと思います。

菅波　実は、AMDAは青年海外協力隊を実施している国際協力事業団と手を携え、ザンビアで保健医療プロジェクトを計画しており、私も今年2月に現地に行きました。AMDAは現在、海外を含め十八支部がありますが、国際協力事業団との連携は活動の幅を一層拡大すると期待しています。

稲葉　助け合うには相互理解が出発点となる。インドネシアの日本企業の工場を訪れた時、現地の人は仕事中でもれ律を欠かさない。この風習を理解しないとうまくいかないそうです。世界規模のボランティアにしても経済活動にしても、相手を理解し、自尊心を傷付けず、相手の目線で活動することが大切ではないでしょうか。

片山　同感です。私は町民六人とともにパキスタンを訪問して今月帰ったばかりです。岡山市で昨年開かれた国際貢献NGOサミットのサテライト会議が加茂川町で行われ、パキスタンの社会福祉事業家モハメッド・サイドさんをお招きした時、人間尊重と福祉優先を掲げる吉備高原都市に感銘を受けたそうです。学校をつくり、孤児五千人を育っているサイドさんは、吉備高原都市の理念をパキスタンの人々に伝えたいと、我々を招かれたのです。現地の小学校と加茂川町の小学校の交流などを約束しましたが、子供たちが互いに理解しあうことで、優しさといたわりの心を育ててくれれば、と楽しみにしています。

国際貢献パワー おかやまは動く

アジア医師連絡協議会
AMDAからの報告

シリーズ企画 No.6

日本を分かってもらえる 元気な岡山づくりに刺激

幅広い視野もつ人材育てる

国際大学、ぜひとも岡山にAMDAの支援を広げよう

〝地方の時代〟推進にはずみ

―国際貢献の目的は平和にある、とのお話がありましたが、経済発展の面でも、国際関係の安定は大きな要素を占めますね。

稲葉　最近のボランティア活動は、AMDAの医療援助のように国境がなくなっている。同様に経済の分野でもボーダーレス時代にある。例えば、岡山県に本社を持つ企業で言えば、八十六社が海外に支店や営業所、販売拠点、生産施設などを設けている。今、ニューヨークで起きた問題はリアルタイムで岡山経済に影響する。それだけに、国境とか民族を越えたところでありよき関係を築いていかねば、何事もうまくいきません。AMDAのような国際ボランティア活動は、対日理解の面からもありがたいことです。

菅波　国境という点ではAMDAが岡山を拠点に世界で活動できるのも、通信手段が発達して地球が狭くなり、地方から情報発信ができるようになったからです。

―その本部を、東京ではなく岡山に置く狙いはなんですか。

菅波　教育と医療と宗教を大切にする岡山の精神風土を基盤に、民間人道援助の国際拠点を岡山につくる、つまり〝西のジュネーブ　東のオカヤマ〟にしたい。同時に、過疎の地域はお互いに思いやりがなければ暮らしにくい。その〝思いやり〟は国際貢献の原点。岡山の地域おこしにいくらかでも貢献したいと考えています。

片山　加茂川町に最近、うれしいことがありまして…40年間、減り続けていた人口が95年の国勢調査で二百五十一人増えた。それが国際貢献活動のおかげとは言いませんが、町が元気でいれば活性化もできるし、町民がいつも生き生きしていれば加茂川の情報発信ができる。国際貢献は、町民に良い刺激となっています。

菅波　加茂川町は、熱心にいろいろ取り組んでおられますよ。

片山　町内にKIOという国際貢献推進の組織も生まれ、中学生からお年寄りまで約百三十人が参加、国際貢献NGOサミットのサテライト会議受け入れや海外の砂漠緑化、国際貢献・国際交流の研修会、それからホームステイ受け入れなどを行っています。英語がしゃべれない町民も、けっこう楽しくやってますよ。私もサテライト会議に来られたジプチやアイルランドの人とも今でも手紙やおもちゃのやり取りが続いており、岡山から情報発信をしています。

―AMDA国際大学の構想が関心を集めているようですね。

菅波　AMDAは、ボランティアスピリットを国際人道援助や地域起こしに役立てようと活動しています。民族や言葉、社会習慣の違う国に飛び込んでいきますが、活動の過程で難しいのは、価値観や宗教の違う人たちとどうやって一緒に汗を流すことができるか、にあります。AMDAの活動は医師や看護婦だけではありません。一緒に現地入りして、医師らが活動しやすいように現地政府と交渉したり、医薬品や食料を調達する調整員と呼ばれるボランティアがいます。活動の成否は実はこの調整員にかかっていともいえるのです。AMDAが国際大学の設立を計画したのは、調整員がつとまる幅広い視野と知識、語学力をもつ人材を養成するためです。

―国際大学はどこにつくるのですか？

菅波　ぜひとも岡山県に、と考えています。外国語はもちろん国際法や社会学、宗教学を学び、海外の難民キャンプや国連・国際機関で実習体験を積む。教職員は国連やNGO、外国の大学と連携して公募する。既に県内外の自治体などから問い合わせがかなり入っています。

稲葉　大変すばらしい計画ですね。時代の要請を的確につかんだ大学構想だと感じます。

末光　ホンジュラスから帰っても、少しでも世界と関わりを持ち続けたいと願っています。せっかくの海外活動助勇を自分の内部だけに埋もれさせるのではなく、若い仲間に多少なりとも伝えなければいけない、とも思っています。NGO活動にも参加したく、岡山市のAMDA本部事務局におじゃまさせていただいたこともありました。

末光　私もホンジュラスの友達と、今もよく通をしています。子供ができたとか知らせてくれたり、私は近況を書いたり…なつかしい、覚えていてくれてうれしいですね。情報発信というようなだいそれたことではありませんが、外国にも理解しあえる友達がいるのは、私には大きな財産です。

菅波　同じ日本の地方からの情報発信でも、広島や長崎は原爆、沖縄は戦場とか米軍基地問題などで知られているので、世界から見て分かりやすい。岡山で分かりやすいものには、一つには福祉があるのでは。吉備高原都市や旭川荘は分かりやすい。これに岡山の国際貢献が加われば、岡山は世界で分かりやすい地域になります。国際貢献とともに福祉の情報もどんどん発信をする。岡山が分かりやすくなれば、どんどん人も来る。活性化につながりますよ。

稲葉　福祉や国際貢献の情報発信基地・岡山づくりは、岡山の経済界としても賛成です。加えて言えば、岡山を基盤にするのはもちろんですが、〝日本であり岡山である〟といったように、ふとこころをくすぐ持ってくれる、考えたらよいのではないでしょうか。

末光　実際に海外で活動してみると、岡山というより、日本人ということを意識して現地の人と接していました。

稲葉　心は岡山であるが、頭は日本人であり、世界人であることも大切と思います。

菅波　茂さん（すがなみ・しげる）　岡大医学部大学院修了。昭和56年菅波内科医院開業。同59年AMDAを設立し人道援助活動を展開、国連ガリ賞受賞などその活動は高い評価を得ている。

末光　美世さん（すえみつ・みよ）　ノートルダム清心女子大食品栄養学科卒。青年海外協力隊員として平成4年7月から2年間、ホンジュラスで農村の栄養指導などにあたる。

劣悪な環境に暮らすネパールの子供たち。〝愛の手〟を待っている＝93年

このシリーズは今回で終わります。シリーズについてのご意見、ご感想を左記にお寄せください。

〒700岡山市柳町2―1―23　山陽新聞社広告局「アムダ係」

AMDAの活動や本部事務局（岡山市楢津、菅波内科医院内）でのボランティア、資金提供などの問い合わせは☎086・284・7730、FAX086・284・8959へ。

〈企画・制作　山陽新聞社広告局〉